

令和2年度地域農業の六次産業化を担う 「食と農のプロデューサー」育成プロジェクト事業

事業主体名 鹿児島県立加世田常潤高等学校

1 目的

本校食農プロデュース科は、農業における生産・加工・流通を一貫して学ぶ県内唯一の学科である。六次産業化を担う人材育成を目標としているが、その達成のためには、市場や消費者のニーズをよく理解したうえで、消費者までの流通の道筋を設計する力が求められる。本学科の教育課程に加え、専門家との連携を図ることで、食と農のプロデューサー、つまり「六次産業化の担い手」育成を目的とする。

2 実施状況

(1) 商品開発のためのデザイン講演会の実施

デザイナーの久保雄太氏を招いて、デザイン講演会を実施した。マーケットイン手法による商品開発の実践には、広義の「デザイン」を理解する必要がある。特に、以下の2点について学ぶことができ、商品開発のスタートアップとして絶好の機会となった。

- ①デザインとは、見た目のことではなく、消費者に商品をお届ける緻密な設計(品質・流通・パッケージ・売場設定)のことであること。
- ②ただ商品を作るのではなく、「何を伝えたいか」「自分たちの強み・魅力は何か」をしっかりと把握したうえで商品やブランドのコンセプトを定める必要がある。



【図1 デザイン講演会の様子】

(2) 商品開発の実際

野菜・果樹・畜産専攻班に分かれて商品開発に取り組んだ。加工品試作を通じ、加工技術の習得や理解が深まった。各専攻班の取り組み内容は次のとおり。

専攻名	素材	試作品
野菜	地域農家産 自然農法栽培 の“かぶ”	ピクルス, ドレッシング おでん, スープ
果樹	本校産 温州みかん	色鮮やかなジャム
畜産	本校産黒豚	角煮, 角煮ドッグ



【図2 試作品(野菜専攻)】
かぶのピクルス, かぶのドレッシング

(3) マーケティング研修

各専攻班の商品仕上のイメージを高めるため、イオンモール鹿児島, 地球畑荒田店, 北野エース・マルヤガーデンズ店に出向いた。多様な商品を見るだけでなく、実際に購入し試食することで、自分たちの商品のクオリティを高めるヒントをつかむことができた。

3 今後の課題, 取り組み

- ・試作品の品質を更に高めるだけでなく、テストマーケティングによる味の調整を重ねる必要がある。また、日持ち検査も並行して行い、令和3年秋の完成を目指す。
- ・想定する消費者ターゲットに届くような販路開拓と、パッケージデザインを考えていく必要がある。必要に応じて、専門家の支援を仰ぎながら事業を進める。



【図3 試作品(果樹専攻)】
常潤産 温州みかんジャム